

## 福岡県運輸事業協同組合連合会 創立50周年

去る7月5日(金)、福岡県運輸事業協同組合連合会創立50周年記念式典が「ホテルオークラ福岡」に於いて総勢211名出席のもと、盛大に挙行された。

### ●50年を振り返って!

本連合会は、東京オリンピックを翌年に控え高度経済成長著しい昭和38(1963)年7月、福岡運輸事業協同組合と福岡貨物運送協同組合の2組合で設立され、現在4組合、合計270超の組合員を擁する組織にまで発展している。

式典では、まず組合設立から現在に至るまでの歴史を振り返ったスライド『50年の軌跡』が上映され、昔を知る出席者は懐かしく見入っていた。



スライド上映



挨拶をする原代表理事

### ●原代表理事の挨拶

原重則代表理事は主催者挨拶で、「共同購買事業や共済事業はもとより、全国に先駆けて集団化事業の重要性に着目した。昭和38年12月の那の津運輸団地と運輸コンビナート建設の第一次集団化事業を皮切りに、これまで第四次に亘る集団化事業をはじめとする数々の事業を成功へと導いた。こ

れらの成功は先輩諸氏や関係各所のおかげである。」と、これまでに対する感謝や「現在福岡東物流センター(古賀市篠林地区)の集団化事業へ向け、本連合会が一丸となっている。現在のトラック業界は燃料価格の高止まりなど厳しい状況が依然続いているが、今後とも役員一丸となり邁進する所存である。」とこれからの意気込みを熱く語った。

### ●50周年を祝って!

続いて来賓を代表し、九州運輸局長佐藤尚之氏、福岡県副知事服部誠太郎氏、公益社団法人全日本トラック協会会長星野良三氏より祝辞が述べられた。

また、永年にわたりトラック業界ならびに同連合会の発展に寄与された古賀敬啓氏(宗像陸運株式会社取締役会長)、内田昭夫氏(内田運輸株式会社代表取締役会長)の両氏に感謝状が贈られた。

式典に引き続きパーティーが催され、精華女子高等学校吹奏楽部による演奏が華を添え、出席者が和やかに歓談し、成功裏に終了した。



### プロフィール

組合名：福岡県運輸事業協同組合連合会  
代表理事：原 重則  
所在地：福岡市博多区対馬小路13-26  
クレセントビル  
TEL：092-283-2300

### 飲んだら乗るな、飲むなら乗るな！

「カタカタカタカタ」——。音を鳴らしながら個人タクシーのプリウスが近づいてきた。中から降りてきたのは第一個人タクシー事業協同組合の大坪東吉郎理事長。営業車でもある車のタイヤに「STOP!! 飲酒運転 あなたのモラルで、助かる『命』があります」と書かれたステッカーが貼られた静止ホイールが装着されていた。



本来、ハイブリッド車であるプリウスは低速走行時にはほとんど音を発しない。音の正体はこの静止ホイールであった。この静止ホイールは、25キロ以下の低速走行時のみ音が鳴る仕組みで、歩行者に対し車が近接していることを知らせる役割も果たす。

静止ホイールは本来、トラックなどの大型車が巻き込み防止を目的に、NPO法人兵庫県発明振興会の前理事長が、発音装置は同会会員の子供が発明した。この発明に目を付けた大坪理事長が、ステッカーを貼ることを提案し、この製品が実現した。



当組合は昭和46年6月に久留米市内の個人タクシー事業者で組織された組合であり、設立以来、個人タクシー業界の発展、指導育成に寄与してきた。この様な中で平成13年、交通事故ゼロへの取り組みとして、交通安全ステッカーをタクシーに貼り付けることを開始。平成18年には海の中道で起きた飲酒運転事故を契機に飲酒運転撲滅に向けた運動を開始した。その後、お酒の臭いのする乗客に対して、飲酒運転を行わないように声をかける「飲酒運転撲滅“声かけ”運動」へと発展。さらに、組合員の全車両に飲酒運転撲滅ステッカーを貼り付けるなど、組合員一丸となり「飲酒運転撲滅のための周知活動」の取り組みがなされている。



現在この静止ホイールを装着しているのは、大坪理事長のみであるが、これからも引き続き組合で周知活動を続け、「ちんどん屋さんの精神で練り歩く」「飲酒運転による事故をなくしたい」と意気込んでいた。

～STOP!! 飲酒運転ステッカーについて～

平成23年2月に福岡県糟屋郡で起きた、飲酒運転事故で息子を亡くされた山本美也子さんが作成されたものです。

#### プロフィール

組 合 名：第一個人タクシー事業協同組合  
代表理事：大坪 東吉郎  
所 在 地：久留米市津福本町56番地5  
T E L：0942-34-6000  
F A X：0942-34-6067